

「たからばこ」



～第2層生活支援コーディネーター向け第6号～

地域の支え合い情報紙「たからばこ」は、地域で頑張っている第2層生活支援コーディネーターの皆さんに向け、第1層協議体（関係者ネットワーク会議）の内容や各地区での活動の様子などを中心に紹介し、地域福祉活動の推進に役立てていただくために、年数回程度の発行を予定しております。

今回は、12月に行った第2回関係者ネットワーク会議の報告と地域訪問での出会いをお伝えします。



関係者ネットワーク会議のおさらい



1 会議の位置づけ

長岡市では、社会福祉協議会と協力し、高齢者を支える「地域の支え合い体制づくり」を推進していくため、生活支援体制整備事業を実施しています。本事業では、生活支援サービスを担う多様な主体間との連携により、日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を図るため、「協議体（市や地区ごとの協議会）」の設置や「生活支援コーディネーター」等を通じて、互助を基本とした生活支援等サービスが創出されるよう取組を進めます。この会議は、本事業における第1層（市）の協議体として実施するものです。

2 今回の会議について

第1回の会議では、市民セミナーのテーマや内容について議論いただき、それを基に、セミナーが行われました。また、今後の関係者ネットワーク会議では「自分の地域で使えるサービスが何なのかがわかるものを検討したらどうか」「協力者を確保する取組の検討が必要」等の意見が出され、その中から、「協力したい方、協力できる方をうまく活用する仕組み」について、会議参加者の所属先の現状報告を聞いた上で、協議していただきました。

会議参加各団体・機関の取組や課題等の情報を紹介します。

「担い手不足」は一番の課題。回覧板がきても見る前に回されたという声も。口コミが一番。出逢うきっかけを作ることも大事。（**コミセン主事**）

皆が喜んでくれた、自分もうれしかったという体験が大事。単発な内容でも、やりがいや生きがいを持てるきっかけにしていきたい。（**コミセン主事**）



頑張る気質、人の世話になるのは…という気持ちも考えていかななくては（**行政**）

支え手には、長期的なお願いはしない。また、複数人に依頼することで負担を減らす。募集の方法も、ターゲットが誰なのか？を絞らないと空回りするのでは。（**ボラ連**）



無理なく働きたい、昔の職歴を生かした仕事がしたいというニーズがある。センターは、仕事をするだけでなく、社会参加や会員同士の交流等も含めて、イメージが湧きやすい広報を目指している。（**シルバー人材センター**）



拘束性の低いコミュニティの在り方等意見交換

○情報の伝え方の見直しが必要

- ・回覧文書やチラシも、具体的にターゲットを絞るなど必要がある。
- ・お茶の間やサークル、コミセン活動等でも、情報提供や共有ができるため、広報だけでなく視点からも検討が必要である。
- ・SNSを利用したPRも必要だが、一番は「口コミ」だと思う。

○今、活動している人の背景を考えると、幼少期より支え合いや繋がりの体験を楽しみながらできていたのではないかな。

- ・子どもの頃より、ふれあい、支え合い、繋がることでの楽しみを経験できる機会が重要ではないかな。

○ボランティアに対する不安感、負担感の軽減

- ・初めて「出来上がっている集まり、組織、グループ等」に参加することは、不安や勇気がいると思う。また、一度参加すると、二度と脱会できないのではないかなという心配もある。
- ・「おためしボラ」「ちょこっとボラ」「他地区での活動」など、できることをできる時に、そして特技を活かせたり、前職の経験を活かせたら良いのではないかな。



特技や趣味の合う人が集まる機会が繋がりや情報交換の場に。(大積ひまわり会)

地域のお宝紹介



地域の方の手作り作品を展示社会参加ややりがいにも繋がる。作品を通じて新たな出会に。(福戸コミ)

地域内の専門家より教えてもらう機会を通じて、男性の料理教室や親子料理教室とコラボも。地元にいる「お宝人材」の発掘に。(三島コミ)



各種イベントの様子をその時の参加者の声が聞こえるようなコメントでポップ調にし、見て楽しい掲示に。(十日町コミ)



地域の方に手話を教わり、コミュニケーションをはかる際の工夫を。気負わずに、まずは挨拶から。(金房はつらつ会)

「コミセンカフェ」で、地域の交流の場に。親子で立ち寄り、多世代交流も。イベント開催でコミセンに来館者アップ。(与板コミ)

発行：長岡市長寿はつらつ課 令和6年1月

製作：長岡市社会福祉協議会地域福祉課 生活支援コーディネーター 松浦